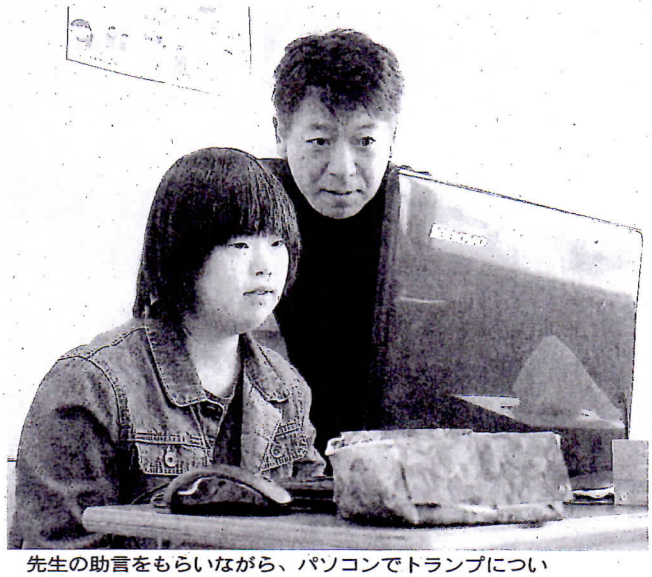
ゆっくり成長 私の「大学」

いま子どもたちは No.1510
18歳からの学び場 1

11月中旬、東京都新宿区にある「カレッジ早稲田」。福島めぐみさん(20)がパソコンを開き、黙々と文字を打ち込んでいた。1年かけて、自分の興味あることを調べる「自主ゼミ」の時間だ。

カレッジ早稲田は、障害のある若者たちが学ぶ「大学」だ。障害者総合支援法の自立訓練事業（2年間）と就労移行支援事業（同）を組み合わせ、4年間を通じた独自のカリキュラムを組む。2014年に開校した。普通科と生活技能科からなり、現在、特別支援学校高等部などを卒業した104人が学ぶ。運営するのは、社会福祉法人鞍手ゆたか福祉会（福岡県）から分社した株式会社ゆたかカレッジ。全国5カ所にカレッジがある。


先生の助言をもらいながら、パソコンでトランプについて調べる福島めぐみさん＝14日、いずれも東京都新宿区

普通科2年生の福島さんは、生まれてすぐダウン症とわかった。保育園から中学校まで地域の学校に通い、都立練馬特別支援学校高等部を経て、カレッジ早稲田に通い始めた。高等部の同級生の多くは就労したが、母の幸恵さん(54)は「もうちょっと勉強させたい。若者らしく、友達と楽しむ時間を過ごしてほしい」と考えた。

福島さんが今、最も力を入れているのが、自主ゼミだ。来年2月、自主ゼミで調べたことをプレゼンテーションソフトにまとめて発表する論文発表会がある。「絶対に賞を取りたい。すごく燃えています。私、負けず嫌いなんで」

自主ゼミは普通科の目玉授業の一つ。自分の好きなことを追究し、情報活用能力や主体性などを育む狙いだ。内容はアニメから数学まで、と幅広い。生活技能科の学生には「自主研究」の時間があり、例えば、3年の小山内大貴さん(21)は「日の丸」を、中西恵治さん(23)はSLについて調べている。中西さんは新宿区立図書館で借りた本の写真を見ながら「このSLの煙は黒いね。でもこっちは白いね。なんで？」。

SLについて調べる中西恵治さん。隣では小山内大貴さんが「日の丸」についてプリントにまとめていた＝6日

福島さんは1年の時、大好きなジャニーズをテーマにした。「論文発表会で頑張ってしゃべったけど、ダメでした」と福島さん。賞はもらえず、「2年生では絶対に優勝したい」。

ボルダリングやオリンピックなど、自分で考えた約20のテーマ候補の中から、母と相談して「トランプ」を選んだ。昼休み、友達とトランプで遊んだことがとても楽しかったからだという。

最初、福島さんはトランプのルールを中心に調べた。でも、なんだか面白くない。母から「みんなが『へー』『ほー』って言う内容じゃないと優勝はできないんじゃない？」と言われ、面白そうな話題をインターネットで探した。

トランプの四つのマークの意味、ジョーカーはなぜあるのか、そもそもなぜトランプというのか――。

ワードを使い、5章立てでまとめた。ローマ字入力は中学校で習得済み。漢字変換も正確だ。話題に合う画像をネットから引っ張り、大きさや位置を調整しながらプレゼンテーション用資料も作り上げた。「私も『へー』って思った。みんなもきっと、『へー』って思ってくれると思う」と自信をみせる。

担当する君島誠先生は「困っている時に声をかけたり、進度を確認したりするだけ。基本的にはまかせています」と話す。

論文発表会まで、あと2カ月余り。福島さんはいま、カードゲーム「UNO」についても調べている。「最後にトランプと比べて、良かった方で発表します。賞の自信はあります」と笑顔を見せる。

そんな福島さんの姿を見て、幸恵さんは「去年のように、自分の思いをしゃべるだけではだめだと気が付いた。人に理解してもらうにはどうするか、そんな視点を得られたみたい」。

去年、福島さんは自主ゼミについて一切助言を求めてくることはなく、パソコンにも触らせなかった。でも、今年は違った。幸恵さんは言う。

「今までは人に頼ることを自分の『失敗』だと思っていた。それが、賞を取りたい動機からであっても、頼れるようになった。同時に『ごめんなさい』の言葉も、さらっと口から出るようになった。かたくなだったのが変わりました。この1年で、本当に成長しましたね」

（山下知子）

高校を出た後も学び続けたい。そう願い、「カレッジ早稲田」に通う障害のある若者たちの姿を、紹介します。

知的障害の若者 乏しい学びの場

特別支援学校高等部の卒業者の進学先としては、特別支援学校に設置された専攻科（2年）という選択肢がある。だが、「全国専攻科（特別ニーズ教育）研究会」によると、知的障害が対象の専攻科があるのは全国で9校だけだ。

こうした背景などから、10年ほど前から、高等部を卒業した知的障害のある若者の学びの場が各地でできあがった。2014年に日本が批准した障害者権利条約には「締約国は、障害者が、差別なしに（中略）一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受できることを確保する」とある。

文部科学省は今年2月、「学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」（座長・宮崎英憲・東洋大名誉教授）を設置。学校を卒業した後の障害者の学びの現状と課題を分析し、推進策を検討し始めた。NPO法人「障がい児・者の学びを保障する会」（東京）の大森梓・代表理事は「ゆっくり発達するからこそ、より長い学びの場が必要だ。自分の人生をどう生きるかを決定するのは、障害の有無にかかわらず、その人自身。その力を育むためにも生涯を通じた学びの場が全ての人に開かれていてほしい」と言う。

◆感想や、教育に関する情報をお寄せ下さい。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4855へ。